

健康登山74:自然歩道41 (萩原橋～松尾山～関ヶ原駅)

コース	総合体育館 0.4km/6 2.4km/40 0.8km/11	萩原橋 1.6km/23 聖蓮寺 1.6km/46 西首塚 0.9km/12	藤古川橋 2.1km/36 松尾山 2.6km/56 関ヶ原駅	平井集落 不破関資料館 (不破関跡前)
水平距離	12.4km			
水平換算距離				
累計高低差	登り422m、下り351m			
標準歩行時間	3 : 50			
実績歩行時間	4 : 09			
		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		



山行報告

山行日 2012・04・05 (木) 天候 曇りのち小雨 参加者 5名

行動 京都駅7:54 関ヶ原駅9:41 総合体育館10:03 萩原橋10:12 藤古川橋10:37 平井集落11:05 聖蓮寺(昼食)11:56~12:44 松尾山13:15~35 不破関跡14:27 不破関資料館14:30~44 西首塚14:59 関ヶ原駅15:12~23 京都駅16:42

記録

午後はところにより雨という予報なので、関ヶ原駅で相談の上、総合体育館までタクシーに乗った。前回も総合体育館からタクシーを利用しており、この区間は萩原橋から始まる東海自然歩道へのアプローチ部分で歩けば4kmの道のりである。

萩原橋から藤古川橋に至る1.6kmの堤防道は桜並木で前方に伊吹山が見える絶景ポイントで楽しみにしていたが、桜はまだ蕾で伊吹山には雲がかかり見えなかった。

藤古川橋からは西へ向い、今須川沿いの車道を歩くのだが交通量は少なく、蛇行しながら流れる今須川の清流を見ながら歩いた。途中の平井集落を通り抜け、聖蓮寺のある奥の平井集落へ向う途中で雨が降り始めたので雨具をつけた。聖蓮寺には県指定天然記念物の八房梅が咲き始めていて、お寺でお茶をいただきながら昼食をさせてもらった。

ここから松尾山(293.1m)まで約150mの登りになる。松尾山へは南から登り、北へ下るのだが、山頂からは関ヶ原古戦場一帯が一望できる。

松尾山は小原川秀秋の陣跡で山頂には次の標識が立っている。

『秀秋は西軍として、一万五千の兵を率いてここ松尾山に出陣してきました。朝から傍観を続けた秀秋は、家康に催促鉄砲を打ち込まれ、遂に意を決して友軍大谷隊を攻め滅ぼしました。東西両軍の懇願に、秀秋は複雑な事情の中で悩み抜いた拳句の果て、豊臣に反旗をひるがえしてしまい、東軍を勝利に導いたのです。』

古に思いを馳せながら暫く休憩をして、北へ下り、本日の目的地である不破関跡へ向った。不破関跡には不破関資料館があり希望者は入館された。

ここから関ヶ原駅へ戻る途中にある西首塚に立ち寄り15:12関ヶ原駅着。

自然歩道 (萩原橋～関ヶ原駅)



桜並木道
10:24



平井集落
11:04



聖蓮寺本堂
12:31



八房梅
県の天然記念物
11:58



松尾山にて
13:22



関ヶ原陣形図
13:32



松尾山から下る
13:36



不破関跡
14:27



不破関資料館
14:31



西首塚
14:57

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：関ヶ原駅～牧田～松尾山～不破関跡～関ヶ原駅）

参考資料 ホームページ他より

本多忠勝陣跡：関ヶ原駅南 600m、十九女池の西、県道 56 号線直ぐ北の民家の裏に石碑。
忠勝は徳川四天王に数えられた猛将。桑名藩初代藩主となる。

島津の退き口：関ヶ原の戦いで、西軍が敗走、取り残された島津義弘軍は東軍に包囲されます。ここにおいて、島津勢が天下にその名を轟かせた「島津の退き口」と言われる、敵前突破退却戦が開始されます。島津勢が一斉に発砲、島津豊久を先鋒に「鋒矢の陣形*1」で、正面にいた福島正則隊の中央に突撃します。反撃に虚を衝かれた福島隊は乱れ、最初の強行突破は成功します。次いで、松平、井伊、本多の家康陣側近の3隊に迎撃されるも、これを突破します。この時点で、島津隊と家康本陣まで、遮るものは無くなっていました。島津隊の勢いを見た家康は、迎え撃つべき、床几から立ち、馬に乗り抜刀したといます。

島津隊は直前で転進、家康の本陣をかすめるように通り抜け、正面の伊勢街道を目指し撤退していった。この間の距離一丁（一町 / 109m）だったといます。

*背進路： 関ヶ原駅西側→本多忠勝陣→烏頭坂 牧田上野(盛淳自刃/伊勢裏/表街道と二手に分かれる) 勝地峠(追跡中止) 多良(豊久自刃) 五僧峠(島津越) 保月 多賀 水口 信楽 大和 大阪城(義弘の妻女、人質救出) 堺(海路) 薩摩。

*捨て奸： 別名「座禅陣：総大将を逃がす事だけを目的とした戦法。
殿の兵から小部隊を道に留めさせ、射撃精度を上げるため、胡坐をかいて座り、敵の指揮官を狙撃し、槍で攻撃して足止めさす。それが全滅すると、また新しい足止め隊を退路に残し、繰り返し時間稼ぎをして大将を逃がす。生存率の極めて低い作戦でした。本陣を突破され面目をつぶされた松平、井伊、本多の諸隊は執拗に追撃する。島津隊将兵の抵抗は凄まじく、「捨て奸」戦法を駆使して撤退を成功させた。
この戦法で、殿を務めた義弘の甥、島津豊久が「烏頭坂」で死亡。
参謀の阿多長寿院盛淳が「牧田」で奮戦自刃しました。
盛淳と部下の墓が牧田の光淋寺にあります。
追撃隊指揮官の松平忠吉と、井伊直政が相次いでこの戦法に撃たれて重傷。
本線で既に勝敗が決していたことと、家康から追撃中止命令が出たことから、「勝地峠」で追撃を諦める。直政はこのときの傷が元で死亡しています。
関ヶ原脱出の折 1000~300 人もいた兵は 80 人前後になっていたともいいます。

鳥頭坂 うとうさか : 伏兵最適のクランク坂道。旧伊勢街道と名神高速が交差する南側に「島津豊久奮戦の地」の説明板と顕彰碑があります。豊久はここで壮烈な討ち死にをする。

*一説では、豊久は瀕死の重傷を負いながら勝地峠を経て、上多良から檜原まで落ち延びる。瑠璃光寺の僧や名主が匿い傷の手当てをした。しかし傷は重く、足手まといと、匿った人に害が及ぶのを憂い、農家で自刃したと伝えられる。墓(寺の近くの藪)と、位牌と、関ヶ原戦死者供養の梵鐘が瑠璃光寺にあります。

牧田上野 : 国道 365 号線(伊勢裏街道/勝地峠)と県道 56 号線(伊勢表街道)の分岐。
(体育館の近く)ここで島津隊は二手に分かれ、追手を巻いて脱出に成功した。

牧田光琳寺 : 島津隊の阿多長寿院盛淳あたちょうじゅいんもりあつと部下の武将の墓があります。
「牧田上野」で義弘の影武者として、義弘が秀吉から賜った陣羽織を拝領し、石田三成から拝領した軍扇を身に付け、部下と共に奮戦し、力尽き自刃する。盛淳は蒲生の地頭。畠山氏の分家。義弘の家老。蒲生から兵 70 人を率いて駆けつけ、島津義弘に従い参戦する。このとき三成は大いに喜んだといひます。

島津義弘 : 島津家 17 代当主。親豊臣派、又は中立であったが、徳川方伏見城へ兵 1000 人で援軍に行ったが、聞いてないと拒否され、この時点で西軍に参戦することを決意した。家康本陣で家康を討てたが、後の混乱を憂いやめさせたといひう。

聖蓮寺 しょうれんじ : 弘仁 13 年(822)創建。境内に樹齢 700 年近い梅の古木があります。
この梅の樹は県指定天然記念物となっており、幹回り 1,5m あります。
この梅の樹は、「華八果」の品種で、一つの花に八つの実が付くことから「八房梅」と名付けられた珍しい梅の木です。
親鸞聖人が関東からの帰路、聖蓮寺に立ち寄り、親鸞聖人が、食事の際に食べた梅干しの種を植えたものだと、伝承されています。
他に縁の越後にも、親鸞が越後に流された梅護寺(新潟阿賀野市)に八ツ房梅があり親鸞が植えた梅干しの種から育ったと言ひ、「越後七不思議」の一つとされています。
また明石市の柿本(人丸)神社と、赤穂義士ゆかりの月照寺にも、八房梅があります。

松尾山 : 標高 293.1m。慶長 5 年(1600)9 月 15 日関ヶ原の合戦で、西軍のこばやかわひであき小早川秀秋が陣を置いた山。
1 万 5 千の兵で、戦況を見守っていたが、徳川家康の催促で、東軍に寝返り、

大軍で山を駆け降り、西軍の石田三成の親友で、越前敦賀城主大谷吉継(吉隆)^{おおたによしつぐ よしたか}隊に突撃。不意を打たれた西軍は混乱し大敗。東軍を勝利に導いたきっかけとなった山です。配陣は東軍側からみて、西軍の側面を衝く位置になっています。

疲れている大谷隊だが、直属の兵 500 人で、山から突撃してくる小早川隊を 3 度も押し返したという。

更に小早川秀秋^{ひであき}の裏切りに備えて配置していたはずの、脇坂、赤座、小川、朽木、の 4 隊 4200 人が東軍に寝返り突如反転、大谷隊に横槍を仕掛けた。多勢に無勢、大谷隊はついに敗れ、大谷吉継^{おおたによしつぐ}は「3 年の間に祟りをなさん」と恨み言葉を残し、秀秋の陣に向かって自刃したという。享年 42 歳でした。

小早川秀秋は、徳川家康から岡山に、50 万石を与えられたが、2 年後 21 歳の若さで亡くなる。裏切り者と、ののしられ、大谷吉継の亡霊に悩まされ、狂死したとも言われている。子がなかった小早川家は断絶した。

秀秋は、秀吉の妻(寧々)の兄(木下家定)の五男。秀吉の養子になり羽柴(豊臣)秀俊と名乗った。豊臣秀次に次ぐ継承権保持者と見られていたが、豊臣秀頼が生まれると、小早川家に突然養子縁組させられ小早川秀秋となった。

松尾山城経緯：別称で長亭軒(浅井長政時代)。県指定史跡。(室町時代末期に初期築城)

土塁、曲輪、竪堀、虎口、堀切、主郭、井戸などの遺構がある。

宝永年間(1394~1428)美濃の小守護代であった富島氏が築城。

永禄 12 年(1569)織田信長に帰属。

元亀元年(1570)浅井長政が修復。天正元年(1573)信長が長政を討つ。

天正 7 年(1579)安土城が出来、境城の使命が終り廃城となる。

慶長 5 年(1600)関ヶ原合戦で小早川秀秋が布陣。

薩摩カイコウズ街道：国道 365 号線(伊勢街道)岐阜、鹿児島姉妹県盟約 20 周年を記念して平成 3 年に整備され、関ヶ原から 35 km にわたって、鹿児島県の木「カイコウズ/海紅豆」が植えられています。カイコウズはブラジル原産マメ科の落葉広葉樹で初夏から初秋にかけて房状の赤い花を咲かせます。
(姉妹県盟は宝暦治水が縁で結ばれました。また鹿児島市と大垣市も姉妹都市盟約をしています) 牧田上野から南の R 365 は『やまさくら街道』となります。

*宝暦治水：宝暦 3 年(1753)幕府の**有力藩弱体化政策**で、木曾川三川改修工事が薩摩藩に命じられた。全て薩摩藩士の手で行われ、人夫を雇う事は禁じられた。
1 年半の歳月と多大な出費(40 万両)で藩財政が疲弊、藩士 80 余人の犠牲者も出た難工事でした。

工事完了後、工事総奉行で、家老の平田鞆負^{ゆきえ}(正輔)が責任を取って自害した。

遺体は舟で桑名に運ばれ、陸路京都**伏見**の大黒寺に葬られた。
(伏見に薩摩藩の屋敷があった。寺田屋事件で坂本龍馬が一時かくまわれた)

水害は少なくなったが、それでも大洪水があり、明治政府はオランダ人技師**デレーケ**の治水計画により、木曾、長良、揖斐の三川分離工事が明治25年(1892)着工され明治33年竣工した。河川敷地も広くなり、洪水防止に大きな効果がありました。

藤古川 : 牧田の藤古川橋上流(北東)に不破関跡がある。壬申の乱のとき、藤古川を挟んで東側が大海人皇子軍、西側に大友皇子軍が陣を布いて対峙した。

井上神社 : 壬申の乱の後に大海人皇子(天武天皇)を氏神として祀られた。(藤古川東側)

不破関鍛冶工房跡 : 不破関の重要な地点で、南東にあたります。現在は茶畑。

若宮八幡宮 : 藤古川の右岸の藤下^{とうげ}の八幡宮に、弘文天皇(大友皇子)が祀られています。
(藤古川の東西で、地区住民は崇拝する氏神が異なります)

^{ふわのせきあと}不破関跡 : ^{ふわのせき}不破関は古代東山道(中山道)の関所。古代三関の一つ。
不破の関は壬申の乱後に、天武天皇の命により、673年に東海道の「鈴鹿関」、北陸道の「愛発関(あらかのせき)」と共に三関が設置された。
日本三関と言われ畿内を防御するため特に重要視された。三関から東は関東と呼ばれた。
「不破関」は狭い藤古川左岸の要害を利用、北460m、東432m、南112mに土塁が設けられていた。
延暦8年(789)天皇や太上天皇の死や病気などと長岡京、平安京の造営を契機とし維持費もかさみ、三関は封鎖され停廃されるが関守は置かれた。

不破の道 : 「壬申の乱」当時にはまだ関所はありません。関所は乱後に設置されました。
672年壬申の乱で美濃国の多品治^{あおのほむじ}が大海人皇子の命で「不破の道」を3000の兵で閉鎖し、大友皇子の東国への「援軍要請道」を遮断した。
そしてこの近辺が激戦地となったが、近江軍はここを突破することが出来ず、ついに東国に援軍を求めることは、出来なかった。
近江側敗北の、大きな要因といわれています。

*大友皇子は、このとき既に即位して、天皇となっていたとも、言われています。
しかし天武系編纂の「日本書紀」では、弘文天皇の記載ありません。
「第39代弘文天皇」の名称は、明治3年になって追諡されました。

*弘文天皇陵：長^{なが}等^{やまさき}山^{きりょう}前^{りょう}陵 (大津市)。死地である「山^{やまさき}前」の名が付けられた。

不破の関資料館：不破の関にまつわる多数の資料を展示。大人 100 円。

近くの「不破関庁舎跡」のそばに、大海人皇子が兜を脱いだ「兜掛け石」や、沓を脱ぐと足を置かれた「沓脱ぎ石」があります。見学自由。

西首塚：関ヶ原合戦で両軍戦死者数千の首級を葬ったところ。(中山道、R21号線)
1900年の鉄道敷設の際には相当数の白骨が出たといえます。国史跡。

春日神社：月見の名所ともいわれ、「月見の宮大杉」がある。樹齢 800 年周囲 5,8m。
関ヶ原町指定天然記念物。

東軍の「福島正則」陣跡でもあります。「秀吉の子飼い」でありながら石田三成と性格が合わず、東軍につき石田勢と対陣を強く希望したようです。

不破関東城門跡：道標あり、東^{とう}山^{せん}道^{どう}松尾。春日神社の北 100m。

東^{とう}山^{せん}道^{どう} = 中^{なか}山^{せん}道^{どう} (整備後)：武蔵の国 = 東京までの幹線道路
東山道は更に陸奥国まで通っている。

*東山道：近江から陸奥国(多賀城)まで貫く幹線街道。五畿七道の一つ。
(東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道)
江戸時代に中山道などに整備された。

*中山道：江戸時代に栄えた五街道の一つ。六十九次の宿場があった。
江戸日本橋～高崎～軽井沢～沓掛～妻籠馬籠～御嶽～関ヶ原～醒井～草津～
三条大橋。

註) 関ヶ原駅南東に「十九^つ女^ら池^{いけ}」「与市宮(墓)」など見聞所がありますが、紙面の都合上、説明は、次回の「関ヶ原古戦場編」で紹介いたします。

*1：鋒^{ほう}矢^し陣形は矢印の様な形で、鉄砲をもつものが外を固め、中に槍をもったものが並び、一団となって鉄砲を撃ちかけては、槍をもったものが突進し、少ない兵力で一気に敵陣に突入して大将の首を取る戦法。(孫子の兵法/島津隊は4隊を編成した)